

平成 26 年 5 月 8 日

5 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木の丸太生産は、雪害を受けた県西部地域を除いて順調。林道の倒木処理で入荷減少の地域もあるが、それ以外の地域からは順調な入荷が続く。全体としては平年並みの入荷量だが、先行き雪害による原木出荷への影響が懸念。荷動きは、製材工場の積極的な原木確保により、一時弱まったスギが回復に転じた。ヒノキは柱材の引合いが弱く全般に低調。製品価格が構造材を中心に値下がり基調の中で、スギは時期外れの小反発に転じており、柱材は強含み、中目材は保合。ヒノキは柱材が引続き弱保合で中目材は横這い。群馬の製材工場はフル操業継続中。原木の入荷・在庫とも特に問題なし。製品在庫少なく、積み増ししたいができない状況。4,5月とも消費税増税の落ち込みは感じない。スギ原木は一時下げの場面があったが、少し戻している。カラマツ原木は4月の国有林公売で15,000円/m³超えの高値もあり、需給は依然としてタイト。

2. 米材

日本向け米国産米マツ丸太は、日本からの引合い減少により、2か月連続で\$20/千スクリブナー(約\$4/m³)値下がりした。出材は好調。カナダ丸太は、好調な住宅着工による木材需要が旺盛な米国向けの生産が伸び、原木価格は高止まり。日本向け、中国向けの配船がややペースダウンしている中で、出材は落ちておらず、港頭在庫は増加傾向。ウェアハウザー社の5月積み米マツISソートは、前月比較\$20下げの推定\$870。米材原木の入・出荷、在庫ともに横這。国内の米材製材工場は、大口需要家であるプレカット向け販売がスローダウンしており、大型港湾工場、内陸部中小工場ともに、生産調整を行っている。米製材品のTLT(東京木材埠頭)4月の入荷量は31.4千m³で前月比9.7%減、出荷量は34.6千m³で同20.5%増、在庫量は55.4千m³で同5.3%減。米国内は天候に恵まれ、ランバーの需要が回復し、価格は再び上昇に転じている。日本国内では動き鈍く、大手製材DF小角価格は弱含み。産地価格は対日向けDFKDSTDJグレード価格は弱い。角\$485/m³、垂木\$510/m³(CIF)レベルのオファー。ランダムレングス紙発表の15種平均価格は、ここ2週間値上がりしている。TLT4月の一日当たりの平均出荷量は3,3千m³で、通常の3.7~3.8千m³に比べ少な

ったが、米材に関しては比較的多いほうだった。これは SPF に動きが集中したと見られる。

3. 南洋材

サバは、山元の天候不順と一部原木サプライヤーの林区が終了したことから、全体的に原木出材は低調で価格も横這から強含み。製材工場は原木の出材減と値上がりにより製品価格への転嫁を強く要求。サラワクも天候悪く原木出材が安定せず、特に太材が不足気味で原木サプライヤーは日本バイヤーへの強気姿勢は崩していない。製材工場は低質材製材が多く、価格は横這。PNG ソロモンも雨多く、原木出材が低調の中、中国勢が買いに戻ってきており、依然玉不足続く。南洋材丸太の入荷は減少、出荷は横這、在庫は減少。製材品の入荷は横這。原木の販売は合板用、製材用とも変化なし。製材品の販売は、4 月以降平割類、集成材ともに荷動き鈍く、価格は横這。

4. 北洋材

4 月に入り極端な気温上昇が続き、伐採地では 20℃を上回り集材が不可。現地工場にも丸太が入らず製材の減産が増加し、日本向けは丸太はもとより製品にも影響が出る見込み。このような中で中国国境から丸太集積地まで、中国バイヤーの丸太買いあさがり激しくなり、ロシアバイヤーとの摩擦が増す。今後 6 月以降の入荷に注目。富山新港の 4 月丸太入荷量は 17.0 千 m³、原盤は 6 千 m³。出荷状況は丸太が関西方面の需要減で減少、原盤は荷余り感で減少。在庫は 1 か月プラス α。価格動向は、現地完成品で 30×40 KD AB グレードが大幅ダウン。製材品は国内挽きが現状維持を唱えるものの、やや弱含み。荷動きは現地完成品が港頭在庫減らず、30×40 に荷余り感が強い。製材品は消費税の影響で動きが鈍化。国内製材工場は丸太、原盤とも不採算。稼働状況は受注少なく生産調整。

5. 合板

原料丸太のうち国産材は、需要増が続き強気のため若干の値上げ。特に西日本で顕著な状況。南洋材は現地 IPK 材の税率アップに起因して全て強い状況。米材、ロシア材も高値で買わざるを得ない状況。3 月の国内合板生産量 24.2 万 m³のうち、針葉樹合板は 22.7 万 m³で出荷量は 22.2 万 m³と 6 ヶ月ぶりに生産量が出荷量を上回る。しかし在庫量は 9.6 万 m³と依然低水準の状態が続く。販売価格は高値安定状態が続き、消費税増税後の荷動きの停滞から警戒感はあるものの、在庫量の少なさとコスト高から横這いのまま推移すると予測。国産合板は木建ルートで 3 月までの様相が一変し、引合いは少なく静かな状況。直需ル

ートも落ち着く。ただ、在庫量が依然低水準のため弱気モードには至っていない。輸入合板の荷動きは、12mm の市況性の高いアイテム、特にラワン構造用合板で鈍い状態。価格もいくらか小安い値段が聞こえている状況。先行きは消費税増税後で荷動きは停滞していると思われるが、針葉樹合板の在庫量がいまだ低水準なことから価格は横這いで推移するとの見方が強い。輸入合板も国産合板と同様だが、現地の強気は揺るがず、先行きの入荷玉は更なる高値となるため、瞬間的な低価格も徐々に転嫁していくと思われる。

6. 構造用集成材

原料ラミナの入港は順調で現地の生産、丸太問題なし。国産集成材の受注・荷動き共に弱含み。先行き販売量は、輸入が少ないので物件が出れば多くなると予測。在庫は生産減のため適量。ラミナ価格はユーロ高と原料高で高値安定。製品価格は西日本でスポット価格が出ているが、基本的にメーカーは価格スライドを強調。輸入集成材は、4 月契約が一番少ないので、6~7 月入港が減る 4 月契約分まで高値安定で横這い。5 月現地積は若干値下げで決定。大手ハウスメーカーが苦戦している中で、ローコスト系新規参入ビルダーが受注を伸ばしている。太陽光発電をセットとした販売手法のビルダーも受注好調。依然として職人不足は深刻。

7. 市売問屋

国産材構造材はスギ、ヒノキとも動きは鈍い。但し、スギ柱は柱取り原木価格が騰勢気味で、居所はやや高めの状態。造作材は、前月同様リフォーム需要は活発だが、スギ建具用は一服感漂う。外材構造材は、国産材同様に 4 月以降は動き悪い。造作材は米ヒバ、米ツガの桁平割の木取材の動きが良い。スプルーは良材少なく、価格も居所高いが動きは一服状態。販売は、消費増税、ゴールデンウィークにより、買方は様子見の状態。春需要本番にも拘わらず、買方は必要当用買いに徹している。このところ見積依頼件数は増えているものの、成約率が悪くなっている。買方の仕事量がかなり落ちているようで、先行きが不安な状況。

8. 小売

国産材の構造材はスギ弱保合、ヒノキ柱、土台とも弱保合。外材はロシアアカマツ垂木、米ツガ KD 角、平割、SPF いずれも保合。造作材はスプルー良材強保合、ナラ・タモ保合。集成材は WW、RW 梁、柱とも保合。合板は針葉樹・ラワンともに強保合から保合に変わり、不足気味のアイテムも無くなった。床板、フロア材保合。グラスウール断熱材の納期遅れは解消しつつある。プレカット

工場は特に変化なく、加工は順調のまま継続。工務店は新規見積、受注もあり、
今月は継続の仕事でやりくりがつくが来月以降が心配。

5月の需給・価格動向

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	→	→	→
南洋材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	→	→	→

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m) 2等	↗
			スギ中丸太(3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材(3m) 2等	↘
			ヒノキ中丸太(4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ柱(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギ間柱 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×4m	→
米材	丸太	産地価格 国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ	→
			米マツ カスケード(カナダ産)	→
			米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			米マツ桁角(GR) Std&Btr S4S 4・1/8" 13'	→
			米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16" 13'	→
		米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	→	
南洋材	丸太	産地価格 東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー	→
			メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
	製材品	産地価格 東京・問屋店頭 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
			ホワイトセラヤ 平割(サバ州産)	→
		同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→	
北洋材	製材品	国内卸売価格 (東京問屋着値)	エゾマツ(3.0×4.0×3.8m) 特等	→
			アカマツ(3.0×4.0×4m) 特等	↘
			カラマツ(10.5×10.5×4m) 特等	※
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	→
			ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	→
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	↘
	スギ 無化粧 JAS 5プライ		→	
	欧州産	〃	10.5×10.5×2.98m	↘
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→